

病 院 だ よ り

病院からお知らせとお願い

家庭における感染対策

島崎 信夫

理学療法部

岩上 伸一

国際親善総合病院

〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1
TEL 045(813)0221 (代表)
FAX 045(813)7419 (庶務課)

URL <http://shinzen.jp>

国際親善総合病院看護部
モバイルサイト



病院だより

病院からお知らせとお願い

平成23年
4月1日～

お薬の受取方が変わります。

外来で診察を受けられる患者さまには原則として『院外処方せん』を発行し、病院の中ではなく、保険薬局での薬のお受け取りをお願いすることとなりました。

病院で診察



保険薬局でお薬



院外処方せんの有効期限は発行日を含めて4日間です。
(土・日・祝日も4日間に含まれます。)

平成23年
4月1日～

電子カルテを導入します。

当院では、さらなる医療サービスの向上と、より安全な医療の提供を目指し、電子カルテを導入することとなりました。

電子カルテとは従来、紙で記載・保存していた「カルテ」(診療記録)を電子化し、コンピューターによって集中管理するものです。

円滑な導入に向け、十分な操作研修やリハーサルなどを行なっていますが、導入当初は待ち時間が多少長くなることが予想されますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



患者さまへの医療サービスの向上のため
今後とも努力してまいりますので
ご理解を賜りますよう
重ねてお願い申し上げます。

家庭における感染対策

～身近な感染症から大切な家族を守るために～

普段からよく耳にする感染症に風邪やインフルエンザ、ノロウイルスや食中毒などがありますが、なぜかかってしまうのでしょうか。感染経路には大きく3つあります。

- ◆1 手から口へ入り込み腸内で病原体が増殖する接触感染。
- ◆2 くしゃみとともに吐き出される唾液や痰を周りにいる人が吸引することによって気道や肺で病原体が増殖する飛沫感染。
- ◆3 病原体が空気によってそれを空気と共に吸うことによって肺や全身に感染症を発症する空気感染。

食中毒やノロウイルスは接触感染、風邪やインフルエンザは主に飛沫感染により伝播します。一方結核や麻疹（はしか）、水痘（水ぼうそう）は空気感染で伝播します。日常生活でよく遭遇するのは接触感染と飛沫感染です。

ところで、日本は世界でもトップクラスの衛生環境を有している国の一つです。一方世界の国々では日本ではありえないような感染症により多くの方が命を失っています。日本がこれほどまでに感染症が少ないのはなぜでしょうか。上下水道や塩素消毒などのインフラ整備、食生活が豊かなことによる生体免疫力の強化などがありますが、実は日本独特の文化様式、つまり箸やお絞りの使用、握手ではなくお辞儀、唾の飛びにくい日本語（無気音）、洋式トイレの普及、入浴や土足をしない習慣、核家族化などが関わっているようです。そのため私たちは知らずして接触感染や飛沫感染を起こしにくい生活をしていると考えられます。また、アフリカではエボラ出血熱、東南アジアでは強毒性鳥インフルエンザなど致死率が高い感染症が未だに報告されていますが、このような強毒性の感染症は現在のところ世界中に蔓延していません。それはなぜでしょうか。それについても現代生活との関わりがあるようです。身近な感染症やその感染経路、また日本文化との関わりについてもお話できればと思います。

感染制御認定薬剤師 島崎 信夫

ご案内

このテーマは

平成23年4月8日(金) 15:00～約1時間の健康懇話会にて

講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)

理学療法部

理学療法部はPT (Physical Therapist) と呼ばれる理学療法士6名と事務兼助手1名の計7名のスタッフがおります。

理学療法とは病気やけがなどで身体に障害をもつ方に対して、起きる・座る・立つ・歩くなどの基本的な動作の回復や向上を中心とした訓練を行うリハビリテーションのひとつです。

この理学療法が主に行われる理学療法室は、地下1階の中庭に面した明るい場所にあり、限られたスペースをより広く使っていただけるよう日頃より整理整頓を心掛けています。

理学療法室は入院中の患者さんにとって、自由に身体を動かせ大きな声を出していただける病院内では数少ない場所で、ここでは毎日いろいろなドラマが繰り広げられています。

身体が思うように動かさずに泣き出してしまう患者さん、手・足を動かすたびに辛さや痛さで大声を出される患者さん、やっと歩けるようになったと喜ばれる患者さん、病室では話せない話を楽しそうに会話されるご様子など様々な場面があります。

我々スタッフも患者さんの状態が良くなられた時は一緒に喜び、痛さや辛さがある時は対策を考え、なかなか症状が改善しない時は笑顔で励ましています。

患者さんは誰一人として同じ症状・同じ条件・同じ環境ではありませんので、お一人お一人の症状や状態に合わせ、きめ細かくリハビリの内容を考え実施しています。

理学療法の対象は整形外科疾患、脳神経系疾患、内科・外科疾患に伴う廃用症候群や呼吸理学療法、耳鼻科領域の顔面神経麻痺など幅広く対応しております。また、医師をはじめ看護師や医療福祉相談員とともに連携して早期退院・在宅復帰に向け、患者さんとそのご家族の方への的確なアドバイスやバリアフリーなど快適にお過ごしいただけるよう家屋調査なども積極的に実施しています。

突然の病気やけがと向き合っている方々に理学療法を通じて、一日も早く回復され、そして社会復帰していただけるためにお役に立てるよう、これからも努力して参ります。



理学療法部係長 岩上 伸一